

令和5年度 小垣江小学校 学校評価アンケート結果

番	保護者アンケートの質問内容	回答者	上段:保護者 下段:児童 ※グラフについては、左から「1あてはまる」「2どちらかといえばあてはまる」「3どちらかといえばあてはまらない」「4あてはまらない」「5分からない」という評価をいただいた割合です。		※グラフの1・2を合わせた割合が、80%以上をA、60%以上をB、それ以下をCと判断しました。
			R4	R5	
1	学校は、お子さんに勉強や運動などで楽しんで活躍する場を作っていますか。	R4 保護者		A	保護者・児童ともに8割以上が、学校は楽しく、充実できる場所だと感じている。特に児童の肯定的な回答が90%あり、昨年度よりも増加している。今後も、保護者や児童に楽しく充実できる学校と感じてもらえるように、日々の教育活動を進めていきたい。学校が温かくまた、一人一人の居場所や活躍の場をつくるなど、きめ細やかな配慮を継続していき、温かい学校を目指したい。
		R5 保護者		A	
	R4 児童		A		
	R5 児童		A		
2	学校は、子どもたちが自他の命を大切に活動する活動を行っていると感じますか。	R4 保護者		B	「分からない」と答えた割合が依然として高かった。特に保護者については、昨年度より減ったものの22%が「分からない」と答えた。児童については90%以上が肯定的な回答をするものの、「分からない」の回答が約5%もあった。今後さらに「命を大切に活動する行動」や「思いやりのある行動」を価値付け、温かい心を育む教育を積極的に行うとともに、保護者に活動の内容を積極的に伝えていきたい。
		R5 保護者		B	
	R4 児童		A		
	R5 児童		A		
3	お子さんは、自分自身でよいところがあると思っていますか。	R4 保護者		A	昨年度までと同様に88%の保護者が「子どもが自分自身でよいところがあると思っています」と肯定的な回答をしている。児童は76%(昨年は74%)が肯定的な回答をしているものの今年度も15%(昨年は17%)の児童が「分からない」と答えている。これは、児童自身が自分のよさに気付く機会が必要であると考え。教師も含めて周りの大人が、子どもたちのよさを認め、褒めること等により、自己肯定感もてる子どもになるように支援していきたい。
		R5 保護者		A	
	R4 児童		B		
	R5 児童		B		
4	先生はお子さんのよいところを認めたり、褒めたりして感じますか。	R4 保護者		A	肯定的な回答が保護者は微減し、児童は微増しているものの、昨年とほぼ同じ数値であった。教師が児童のよいところを認めたり、褒めたりすることは、児童の自己肯定感・有用感の高まりにつながるものと考え。今後も児童が自信をもって様々なことにチャレンジして充実した学校生活を送ることができるように、学校全体で児童の頑張りやよさを認め、児童の自己肯定感・有用感さらに高めていきたい。
		R5 保護者		A	
	R4 児童		A		
	R5 児童		A		
5	お子さんは、ありがとうと言えるようになってきていますか。	R4 保護者		A	今年度も保護者・児童ともに、肯定的な回答が多かった。児童会活動でも「ありがとう」と感謝を伝える企画を行い、学校全体に「ありがとう」を大切に心が醸成されてきている。今後も、教師が児童の「ありがとう」の言葉を認め、褒め、大人も進んで感謝の言葉を述べるようにしたい。それにより、「ありがとう」が言える子がさらに育っていくものと考えられる。
		R5 保護者		A	
	R4 児童		A		
	R5 児童		A		
6	お子さんは、なかよく事故に遭わないように登下校していますか。	R4 保護者		A	保護者・児童共に、なかよく事故に遭わないように登下校していると肯定的な回答が多かった。交通指導員さんや地域の方の毎日の見守り、0の日の保護者の方のあいさつ運動など皆さんの温かい見守りのおかげであると分析する。今後も児童がなかよく安全に登下校できるように、安全指導や通学団等でのトラブルに対して初期対応等、児童に寄り添った指導を継続していきたい。
		R5 保護者		A	
	R4 児童		A		
	R5 児童		A		
7	先生は分かりやすい授業を工夫して教えてくれていると思いますか。	R4 保護者		B	児童の肯定的な回答は依然として高かったものの、保護者の「分からない」の回答が昨年度よりも増加した(約20%)。今後は、積極的に授業公開をして、保護者の理解を得られるようにしていきたい。友だちと関わり合いながら考えを深め広める等の日常の授業を工夫したり、児童の実態に合わせてじっくりと授業を進める等、さらなる教師の研鑽にも努めていきたい。
		R5 保護者		B	
	R4 児童		A		
	R5 児童		A		

8	お子さんの話の様子から、学校はいじめ問題にも素早く対応していると感じますか。	R4 R5	保護者		C C	児童の肯定的な回答が、今年度も80%を超えており、いじめを防止する意識が高いことがうかがえる。それに対して保護者は、昨年度と同様に「分からない」という回答の高さが目立った。いじめ問題は保護者との協力なしには本当の解決に至らない。保護者の信頼が得られるように、学校で起きたことや対応について確実に伝えていきたい。また、児童が教師を信頼して相談ができるように、温かい人間関係を構築していきたい。さらに今後も生活アンケートや児童の訴え、保護者からの情報などに真摯に耳を傾け、全職員で協力し、情報の共有を図りながら対応をしていきたい。
	友だちと楽しく生活できており、いじめはいけないという気持ちで毎日生活をしていますか。	R4 R5	児童		A A	
9	授業参観やお子さんの話から、道徳の授業や心の教育がしっかりと行われていると感じますか。	R4 R5	保護者		B B	道徳の授業がどのように行われているのかが保護者に伝わりにくく、今年度も「分からない」の回答が20%を超えた。授業の内容や授業を通して児童がどのように考えをもったのか、今後も積極的に伝えていきたい。また、児童の「分からない」という回答も増えた。児童の実態に合う、心に訴えるような題材選びをし、今後も児童一人一人が課題を自分事として考えられる授業を展開していきたい。また、授業を通して学んだことを生活の中で生かしていけるように、適宜児童に声をかけていきたい。
	道徳の授業では、自分の意見を言ったり友だちの意見を聞いたりして、よく考えている。また、道徳の授業で学んだことを実行していますか。	R4 R5	児童		A A	
10	お子さんは栄養のバランスを意識して、家庭の食事や給食を食べていますか。	R4 R5	保護者		A A	委員会活動や食育にかかわる授業、栄養教諭による給食訪問など様々な取り組みから、多くの児童が栄養バランスを意識して食べようとしていることがうかがえる。保護者・児童の肯定的な回答も依然多いことから、学校での食育の取り組みが一定の評価を得ていることものとする。今後も、児童の成長に大きくかかわる食育を家庭と手を取り合いながら進めていきたい。
	食まるファイブを意識するなどして、食事(給食)をバランスよく食べていますか。	R4 R5	児童		A A	
11	長放課や体育の授業、運動会や部活動などを通して、学校は子どもたちの体力向上に努めていると感じますか。	R4 R5	保護者		A A	保護者・児童ともに肯定的な回答が多く、体力向上に一定の効果が見て取れる。しかし、新型コロナウイルス予防のための規制がなくなったにもかかわらず、今年度は保護者・児童ともに肯定的な回答が微減した。児童の体力向上に向けての取り組みを、学校一丸となって進めて続けていきたい。
	長放課や運動会、体育の授業、部活動で体を動かし、体力がついてきたと感じますか。	R4 R5	児童		A A	
12	学校は、ホームページや学校だより、行事予定表、学年だより、きずなメールなどを通して、学校の様子がよくわかるように保護者に伝えていますか。	R4 R5	保護者		A A	児童の肯定的な回答が、今年度は80%を超えた。ホームページや学年便りの発行を続けてきた成果が出てきているものと分析する。今後も児童児童と学校の様子を振り返ることができる情報発信に努めていきたい。保護者については「あてはまる」が昨年度よりも7ポイントも減少した。さらに必要な情報を、きずなメールやホームページ等でタイムリーに情報発信していく必要性を感じた。今後善処していきたい。
	ホームページや学校だより、行事予定表、学年だよりや毎日の連絡などで、学校や学年の行事の予定がよく分かりますか。	R4 R5	児童		B A	